

館蔵品展

野間仁根

素

描

展

Noma
HITONE 1965.7.22.

野間仁根《仲渡島眺望》

2021.10.2(土)
～2022.1.10(月・祝)

開館時間 / 9:00～17:00 (入場は16:30まで)

休館日 / 月曜日 (祝日の場合は直近の平日)

入館料 / 一般310円・学生160円

高校生以下または18歳未満無料

※大人団体 (20名以上) 250円

※65歳以上の方250円

※障害者手帳をお持ちの方
及びその介助者1名は無料

野間仁根  バラのミュージアム
(今治市吉海郷土文化センター)

〒794-2103 愛媛県今治市吉海町福田
1290番地

TEL/FAX (0897) 84-2566



⇐ 野間仁根バラのミュージアム公式HP





野間仁根 《海岸風景》

本展では、野間仁根の素描画を展示いたします。

仁根は、風景の素描画を多数描いています。第二次世界大戦中、故郷・大島の越智郡津倉村（現今治市吉海町）に疎開した際には、島中を巡り瀬戸内海の風景をスケッチしました。

また、第二の故郷と言っていた千葉県の外房にもたびたび写生旅行に出かけ、海の風景を描きました。その様子は、仁根の著書「呑馬先生釣日記」の中でも書かれています。

仁根にとって、素描とは「自己の思念の表現の為に描く下図」でした。前述の著書の中で、仁根は「我々は常に自然の見える姿ではなくて、自然を如何に芸術するかということに目標すべきである」と語っています。「自然を芸術する」ことを追求して描かれた素描画が、色鮮やかな風景画を生み出したのではないのでしょうか。

油彩画とはまた違った、素朴で味わいのある素描画の風景をこの機会にぜひお楽しみください。



野間仁根 《天面海岸(外房州)》

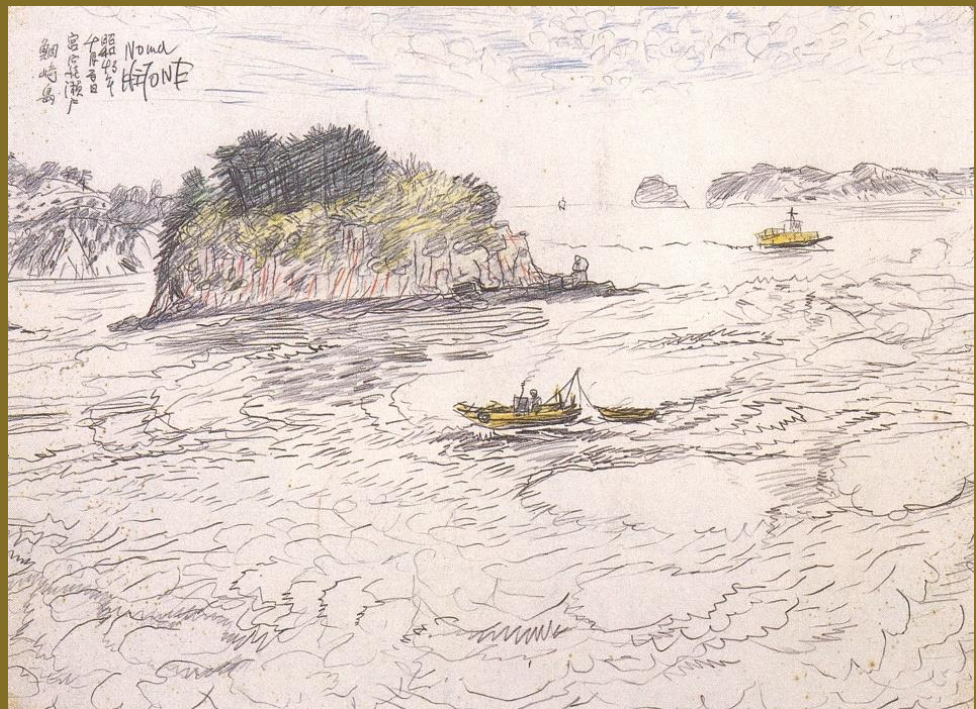
野間仁根

Noma Hitone
(1901-1979)



◆略歴◆

- 1901年 2月5日越智郡津倉村（現今治市吉海町）に生まれる。
- 1919年 伯父を頼り、母と上京。
- 1920年 川端画学校で学び、東京美術学校(現東京芸術大学)に入学。
- 1924年 第11回二科展で「ランプのある静物」が初入選。
- 1925年 東京美術学校卒業。
- 1928年 第15回二科展で「夜の床」が樗牛賞受賞。
- 1929年 第16回二科展で「ゼ・ふうるむうん」が二科賞受賞。
- 1931年 佐藤春夫作「むさしの少女」に挿絵を描く。
- 1932年 津倉村に於いて志那と結婚。
- 1933年 二科会会員に推挙される。
- 1944年 郷里（津倉村）に疎開。軍の命令で二科会解散。
- 1945年 二科会が再建され、入会。
- 1955年 二科会脱退。同年、鈴木信太郎らと一陽会を結成。その後、個展や小規模なグループ展を開催。
- 1979年 12月30日、78歳で逝去。吉海町の福蔵寺に眠る。



野間仁根 《宮窪瀬戸(鯛崎島)》

◆アクセス◆

愛媛県側から

- [自動車] しまなみ海道大島南ICから約10分
- [バ ス] 松山市駅／今治駅より
大三島行き高速バスにて「吉海支所」下車、
バス停より徒歩15分

広島県側から

- [自動車] しまなみ海道大島北ICから約10分
- [バ ス] 広島バスセンター／福山駅前より
しまなみライナーにて大島BS下車、島内路線バスに乗換
「幸（さいわい）」下車、バス停より徒歩10分

